



# 栃事研会報

第77号

栃木県公立小中学校事務職員研究協議会

編集発行人 岡崎 信二

## 主な内容

会長あいさつ 他	1
関ブロ栃木大会報告 他	2～4
表彰の紹介 他	4～5
新加入会員の紹介 他	6
HPアドレス	<a href="http://tochijiken.org/">http://tochijiken.org/</a>

## 新たな年の幕開けにあたって…

栃事研会長 岡崎信二



厳しい寒さも和らぎ、春の温もりを感じる季節になりましたが、会員の皆様におかれましてはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、1月26日、27日に行われました関ブロ大会栃木大会及び栃事研創立50周年記念研究大会には、多くの会員のご参加をいただきまして誠にありがとうございました。

また、長期にわたりご準備いただきました実行委員会及び分科会提案を担当いただきました皆様、本当にお疲れ様でした。心より感謝申し上げます。

今大会は「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」をテーマに、新しい時代の学校とそこに果たす新しい時代の学校事務の創造に向け、全体会、分科会、記念研修会を行いました。

2日間を通して「未来へ向けて認識し、行動する事務職員へとチェンジすること」「それには素敵な実践の積み重ねと全体的拡がりが大切であること」などが確認されました。会員の皆様、ぜひ素敵な実践をお寄せ下さい。とちまるくんアクションシート、今後の栃事研活動に反映させていきたいと思っております。ご提出をお待ちしております。

現在、栃事研では関ブロ大会を含め1年間の事業の振り返りを行っています。修正すべきは確実に修正して次年度の活動に反映していきます。今後とも会員の皆様のご協力をお願いいたします。

**平成24年1月26日、27日**

**第43回関東地区学校事務研究大会兼創立50周年記念栃木県公立小中学校事務研究大会開催！！  
全国から1,420名の参加がありました。**

去る1月26日・27日、多数の学校事務職員及び学校関係者の方を宇都宮市にお迎えして第43回関東地区学校事務研究大会が開催されました。

樋口大会実行委員長より「熟議をキーワードに運営してきます。活発な討議により有意義な大会でありますように」と、大会のねらいについて話がありました。続いて岡崎関事協会長が「熱い議論と知恵と経験の交流により、明日からの行動・実践へとつながる意義深い大会となりますように」と、大会成功に向けての期待を述べられ、文部科学省・栃木県教育委員会等来賓の方々より挨拶を頂きました。

最後に、樋口実行委員長が、「特色ある教育課程の編成に参画し、子どもの確かな学力の定着を図る」等の5項目の実現を目指した「栃木大会アピール」を読み上げて、大会の幕が上がりました。

## 第43回関東地区学校事務研究大会参加者数一覧 県内からは544名の参加がありました

青森	1	岩手	2	秋田	6	宮城	1	山形	4	福島	6	群馬	77	茨城	254
千葉	139	埼玉	56	東京	98	神奈川	38	新潟	3	長野	53	山梨	72	静岡	13
愛知	7	三重	2	京都	1	島根	4	岡山	8	徳島	1	愛媛	8	長崎	22

## 文部科学省の行政説明

は、文部科学省初等中等教育局視学官の太田光春氏より「平成24年度予算案について」説明をいただきました。

平成24年度予算は、東日本大震災復興に係る経費の確保や教育による多様な人材の育成に関する経費等を中心に対前年度比949億円増の約5兆6千億円の予算編成を行ったということでした。その中で、少人数学級の推進や全国学力・学習状況調査、新たな教材整備計画、学校図書館関連の施策について説明がありました。

また、教育現場出身の視学官として、「小中学校では、『自分の持ち味を生かして社会貢献をする』子どもを育ててほしい。子どもたちに勇気と自信を持たせることが学校の使命。」というお話をいただきました。

最後に、学校事務職員は行政事務のスペシャリストとしての誇りを持ち、積極的に学校運営に参画していただきたいと話されました。

## 全体会

では、プロバスケットボールチーム「リンク栃木ブレックス」代表の山谷拓志氏を講師にお迎えして「リンク栃木ブレックス流モチベーションの高め方」という演題で講演を頂きました。

冒頭で山谷氏は、優勝したシーズンのプレーオフの試合を上映して、決勝で終了間際に劇的な同点弾を決めた川村選手を引き合いに出し「偶然ではなく、試合の前日に土壇場の状況を想定した練習をしていた」ことを強調され「諦めない姿勢は重要であるが、事前の綿密な目標設定や準備がとても大切である」と話されました。

また、田臥選手やメジャーリーガーのイチロー選手、プロゴルファーの丸山選手の言葉を引用しながら「環境を決して言い訳にしない」という一流アスリートの共通点や、モチベーションを高めるためには、自己説得により己をコントロールし、固定観念にとらわれない柔軟な見方をすることが大事であると話されました。

## 『標準的組織・分掌図』を考える」

東京小支部による「標準的組織・分掌図を考える」のテーマで第1分科会が行われました。

最初に、東京都の事務職員を取り巻く現状・学校組織や管理職の職制などについて説明がありました。その後、校務改善の方向性や学校組織・分掌図についての考察がされました。その後、各

### 第1分科会

### 東京小支部



都県の取り組み状況の報告と質疑応答が行われました。

現状発表では、東京都の一部で実施されている「専任支援職員」についてや、横浜市の「副校長の職務軽減」をめぐる学校内部の状況についての発表がありました。

「各県の現状などを聞いて、更に研究を深めていきたい」この言葉を最後に分科会が終了しました。

## 「教育が生きる学校事務」

第2分科会では、千葉支部により「教育が生きる学校事務」—信頼される学校づくりの一翼が担う事務職員のための研修体系—をテーマに、研修制度の体系化の基になるものとして「事務職員に求められる資質能力とライフステージとの関連(案)」と「千葉県事務職員研修体系図(案)」の提案がなされました。

討議では、市町村教委の研修の重要性や、事務職員自らが積極的にに関わり、地教委と密接に連携しながら研修計画等の作成をす



るようになった話などがありました。また助言者の方からは、事務職員一人一人が常に課題意識を持ちながら研修のあり方を考え、どのように研修体系を意識づけさせるかが大切であるとお話をいただきました。

### 第2分科会 千葉支部

## 「創り、拓く、とちぎの学校事務を考える」

第3分科会は護国会館で行われました。提案内容は、これまで研究・実践が進められてきた「とちぎの共同実施」の新しい在り方を探る研究発表でした。共同実施で人材を育てていくことの有効性を示し、「学びを支

援する学校事務を創り、拓いていきます。」と力強く実行宣言が出されました。討議では模擬共同実施が行われました。実際に使われている「学校経営全体構想」

を題材にして、学校課題解決のために熟議しながら実行策を考えました。リーダーの必要性や学び合いによる事務職員としての成長を実感するとともに、各県の共同実施の状況や情報を得ることができました。最後に、国立教育政策研究所総括研究官藤原文雄氏より、共同実施には、教育活動を積極的に支援し、学校経営に参画して学びをつくって

いく事務職員を仕事を通して育てていける可能性があることを指導・助言していただきました。



### 第3分科会 栃事研研究部

## 「業務の標準化とその受け皿としての事務

### 組織のあり方を考える」

第4分科会は、文化会館小ホールで行われました。参加者数は494名で、座席はほぼ満席状態でした。

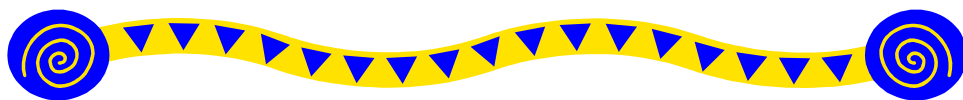
今回は、平成13年に県教委から出された「標準的職務表」に着目した研究発表が行われました。

### 第4分科会 栃事研上都賀支部



通知から10年経過し、標準的職務表がどの程度定着しているか地区内で調査・分析。現状での標準的職務表の限界、事務職員個々よりも事務部としての業務範囲の標準化、業務規準の設定の必要性についての考察を、「業務規準表活用に向けた取り組み」と題した3名の実践発表を交えて行われました。

質疑応答では、助言者に宇都宮大学の藤井教授、アドバイザーに鹿沼市学校支援事務センター統括事務長の三塚氏を迎え、県内外から質疑がありました。



## シンポジウムは、「未来つなぎ、夢・創造、とちぎ

の学校事務！」という内容で行われました。

コーディネーターには、国立教育政策研究所総括研究官の藤原文雄氏。シンポジストとして栃木県小学校長会長の小林利明氏、栃木県公立小中学校教頭会長の大網信祥氏、横瀬泰子鹿沼市立清洲第2小学校事務長、池田安孝那須町立高久小学校主事。



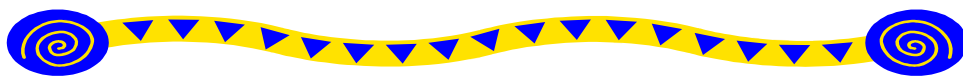
基調報告者として岡崎信二

栃事研会長。6名で「とちぎの学校事務の明日、未来」について率直な意見を交わしていただきました。

このシンポジウムから、50周年を迎えた私たちの栃事研が、今までの歴史を踏まえながら、これからどのように新しい学校事務を創っていったらよいか理解することができました。

最後に、「とちぎの学校事務」についてこれまでも厳しくも温かい支援をしていただいた藤原先生から、熱いエールをいただき、記

憶に残るシンポジウムとなりました。



## 祝 とちぎ教育賞

今年度、2名の事務職員の方が「とちぎ教育賞」を受賞されました。そこで、受賞に際しての感想などをお伺いしました。

塩谷町立船生小学校 藤本豊美 様

この度の「とちぎ教育賞」の受賞に際しましては、塩事研の皆様をはじめ、新採の時お世話になった那須地区の皆様、そして栃事研や教育関係機関の皆様のおかげと感謝申し上げます。今日の教育を取り巻く状況は困難も多いと思いますが、事務職員として「あきらめない心」で進んでいきたいと思っておりますので、今後共ご指導よろしくお願い致します。

壬生町立壬生北小学校 中島裕美 様

受賞の知らせを聞いた時の私は、まさしく晴天の霹靂といった心境でした。これまでの自分を振り返ると、受賞など恥ずかしいばかりですが、これを機に、あらためて学校事務職員としてできることは何かを考え、誠意を持って職務にあたりたいと思っております。これまでご指導ご支援くださいました皆様、誠にありがとうございました。

## 祝 栃木県教育賞

鹿沼市立東小学校

鹿沼市学校支援事務センター統括事務長

三塚 研三 様

野木町立野木第二中学校事務長

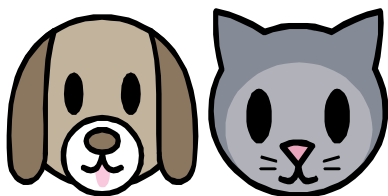
大橋 利昭 様



このたび、「第20回教育振興の集い・講演会」(栃木県連合教育会主催)において第28回栃木県教育賞の表彰式があり両氏が受賞されました。

鹿沼市において学校支援事務センターが大きな成果を上げていることは周知のことですが、その牽引役である三塚氏の功績には多大なものがあり、氏の探求心と日頃からのたゆまぬご努力が実を結んだ結果であり、敬服いたしますとともに、誠に時宜を得た受賞であると思います。また、栃事研は「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」を研究主題に研究研

修を推進してまいりましたが、各支部、各市町、会員一人一人のご理解ご協力のおかげをもちまして、その活動が認められ、昨年度まで本会会長としてリーダーシップをとられてきた大橋氏が受賞いたしました。両氏におかれましては、これからも、ご経験を生かされ、一層のご活躍をなされますことをお祈りいたします。



栃事研主催の研修等は、広報部員が各研修で取材し、活動の記録として栃事研HPに詳細を載せています。ここでは簡単にご報告させていただきます。HPには写真もたくさん載っています！お時間がある時に、ぜひご覧ください♪



■今年度の栃事研セミナーは、「情報管理マネジメント研修」ということで、講師に岡崎事務長(山辺中)を、アドバイザーには吉田事務長(石橋中)をそれぞれお迎えし、講義・演習・グループ討議などを取り入れながらの研修を行いました。

■8月8日(月)、第13回ゴルフ大会が皐月ゴルフ倶楽部佐野コースで開催されました。今年は6支部から36名の参加となりました。



■8月12日(金)、新加入会員等研修会が学校生協会館にて開催されました。参加者は新規採用11名、臨時採用11名。先輩事務職員の経験談、グループに分かれて日頃感じている悩み・その解決策の話し合い等を行いました。最後に、栃事研吉田副会長を講師として、マネジメント研修を行いました。



■2月9日(木)、学校生協会館にて県教委教職員課副主幹兼管理主事の松原伸夫先生をお迎えし、学校事務共同実施連絡協議会が開催されました。参加者は、共同実施組織の代表者、各市町事務研の代表者、とちぎの学校事務ビジョン推進チームの38名で、岡崎栃事研会長による「とちぎの共同実施の考え方」の説明の後、佐野市・下野市・鹿沼市の代表者から共同実施の経過と実施内容について発表がありました。



# 新加入会員のご紹介♪

① 1年間の感想

② 自分のイメージの動物

(イラスト)

分からないことが10割の1年でした。この十割が勤務年数で減っていくのかもしれませんが、ゼロにならないのが学校事務なのだと知りました。

宇都宮市立横川中央小学校

若林 敦子



4月1日に事務職員として赴任して、これまで多くの教職員の方々に支えていただきました。これからも様々な仕事に全力で取り組みたいです。

小山市立小山城南小学校

坂本 尚樹



今年1年で責任の重さなど高校生の時には感じなかったものが感じられ、さまざまな経験ができました。今後とも責任を持って仕事をしていきたいです。

宇都宮市立陽南中学校

大下 竜生



子どもの頃には分からなかった学校の仕組みに驚く毎日です。予想以上に盛りだくさんで、忙しくも楽しい日々が過ごせました。

大田原市立石上小学校

糸井 香澄



学ぶ楽しさを知り、世間知らずを思い知ったこの1年。周りの方々に感謝しています。これからも頑張ります。よろしくお祈りします。

日光市湯西川小学校

神山 千恵



最近ようやく学校、仕事にも慣れ、充実した毎日を送っています。まだまだ未熟ですが、先輩たちの仕事を見習い、頑張りたいと思います。

佐野市立旗川小学校

渡邊 剛士



何もかも初めてのことで、新鮮な毎日を過ごすことができました。一つ一つの仕事を確実に覚え、一人でこなせるよう頑張りたいと思います。

小山市立小山城南中学校

後藤 圭佑



今年一年あつという間でした。多くの人に支えられて何とか乗り切れました。本当にありがとうございます。これからもよろしくお祈りします。

那須町立室野井小学校

人見 寛子



たくさんの方々のご協力を得ながら無事一年を過ごすことができました。今年にはわからないままやった仕事を今後は確実に進めていきたいです。

那須塩原市立金沢小学校

富永 麻衣



色んなことが初めてで、わかったような分からないような、けれど、たくさんの人たちに助けられていることは、よく解る1年でした。

日光市立足尾小学校

田邊 貢太郎



不安だらけの日々の中、たくさんの人に支えられている事を実感しました。今年度得たものを次年度へ活かし、成長していけたらと思います。

宇都宮市立清原東小学校

高山 彩



## 栃事研からのお知らせ

- 平成24年度研修会並びに総会  
平成24年5月25日(金)  
宇都宮市文化会館小ホール
- 学校事務研究大会  
平成24年11月29日(木)  
宇都宮市文化会館小ホール

## 編集後記

1月26日、27日に開催された関プロ栃木大会では、会員の皆様のご協力により盛会のうちに終了することができました。実行委員の皆様には、長きにわたり運営にご尽力いただき、ありがとうございました。また、今年度は栃事研創立50周年という記念すべき年であり、栃事研としても役員、事務局員、専門部員全員で総力を挙げて取り組みました。大きな事業を行うことはとても大変でしたが、それ以上にやり遂げた達成感を味わうことができました。

また、明日が始まります。未来に向かって一歩ずつ着実に歩んでいきたいと思っております。